

第三者評価結果報告書

総 括	
対象事業所名	コンビプラザ橋本保育園
経営主体(法人等)	コンビウィズ株式会社
対象サービス	保育所
事業所住所等	〒252-0131 神奈川県相模原市緑区西橋本5-2-15オラリオンサイト共用棟1F
設立年月日	平成27年4月1日
評価実施期間	平成28年 7月 ～29年 1月
公表年月	平成29年 1月
評価機関名	株式会社 ケアシステムズ
評価項目	県社協版（保育）

総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項等）

＜優れている点＞

- 1) 利用児が少人数であることを活かした保育に取り組んでいる
 定員が50人であり少人数であることを活かし、職員が園児一人ひとりとじっくりかかわり、それぞれの個性を大切に受け止め、伸ばす保育を実践している。また、職員全員が全園児のことを把握し、延長保育等の園児にも誰でも対応できる体制を整えている。

- 2) 発達過程に沿った指導案作りに取り組んでいる
 指導案を簡素化することで見やすく分かりやすくし、子どもの成長発達に対応できるようにしている。日々評価反省することにより、子どもへのかかわりを柔軟にし、見通しを持った保育を行っている。また、保護者との信頼関係を第一に考え、保護者の育児に対する姿勢に真摯に向き合っている。いつでも個別の相談にも応じるなど、家庭への支援に取り組んでいる。

- 3) 子どもの気持ちを受け止め寄り添うことを大切にされた保育を心掛けている
 園全体で子どもたちの気持ちを受け止め、寄り添うことを大切にされた丁寧な保育を心掛けている。自分の思いを理解してもらえた経験が友だちや人への思いを育むことを考えると、毎日の小さな場面で、まだ言葉にできない感情や思いを受け止め言葉にしてもらったり、嬉しい気持ちや悔しい気持ちに寄り添ってもらえる経験を積み重ねることができるのは、子どもの情緒の発達の支援に他ならない。

- 4) 園庭はないが公園や地域の施設を利用するなどの社会性を学ばせる機会を図っている
 園庭がないために、外遊びは近くの公園に出かけることを心掛けている。園庭のようにすぐに出て遊ぶことは出来ないが、公園まで友だちと手をつなぎ交通ルールを意識しながら出掛けたり、地域の方と接することで社会性を育む機会にもなっている。また、公園のゴミ拾いをして日頃遊んでいる公園をきれいにする意識を啓発したり、行き先によって注意しなければならないことを学ぶ機会も図り、園庭がないという短所を子どもたちに社会性を学ばせる機会になるように努めている。

＜独自に取り組んでいる点＞

- 1) できることをアピールし地域に存在感を示している
 民設民営の保育園であり、その利点を活かしてできることをアピールしている。子育て中の保護者へのサービスと支援のほか、地域の子育て家庭との交流など新たな事業にも取り組み、積極的に地域に存在感を示している。また、子どもたちの体力増進、運動能力をつけるために散歩を有効的に実施しており、一日を通して近隣や距離のある公園に出かけ遊んでいる。また、泥んこ遊びの体験として土

粘土を使い、全身を動かす遊びの経験をするなど、園庭がなくとも工夫した保育を実践している。

2) いろいろな角度からの食育に力を入れている

調理を行う栄養士が複数在籍する恵まれた人的環境の中、独自の献立をたて、アレルギー食についても複数の栄養士でダブルチェックを行い、安全で安心できる給食を提供することに注力している。食育活動計画表に基づき食育活動に力を入れ、楽しく食べる、おなかがすく経験をする、食べることに興味を持つことなどを大切にしながら、調理保育、食具の扱い方、食事の姿勢、野菜の皮を利用した染色、触覚で食材を当てる、視覚（影）で食材を当てる、栄養素についてなどのいろいろな角度からの食育を行っている。また、親子参加の行事、クッキングや保育参加などを通し、親子のふれあいの場を多く持っている。

当日の子ども姿、考察・反省についての記録も確認できており、保育士と栄養士との横の連携をとりながら、職員全体で食育への支援を推進している。

3) 指導案の工夫を行い日々の保育への活用を目指している

指導案は計画のみに終わらずに日々の保育の評価反省を行い、方向性を柔軟に持つことを大切にしている。各年齢各クラスが独自にそのクラスに合った方法で指導案を作成し、日々の保育に活用できる指導案を目指している。園での会議は職員会議、乳幼児会議、子ども会議、クラス会議、係担当会議、行事担当会議、園長主任会議、調理スタッフ会議等実施している。また、日常業務に支障のない範囲で話し合いを行い、保育に反映することを大切にしている。ヒヤリハット報告や事故報告等、職員に対し早急に周知するときには緊急にプチ会議を行い徹底を図っている。

<改善すべき事項等>

1) 地域との取り組みを充実させることが望まれる。

地域支援事業として子育て広場を開設し、誕生会やコンサートなどの行事や絵本の貸し出しなど実施している。今後は地域の子育て家庭への相談等も実施したいとしており、さまざまな場や機会を通じ園の機能や専門性を地域に還元することを期待したい。

2) プライバシー保護についての職員間での意識の確認を期待したい

園内に園児用のトイレは1か所あり、子どもたちは譲り合いながら使用している。トイレの便器の数が少ないことを職員は認識しており、トイレタイム時間をずらすなどの配慮をしてトイレでの混雑を回避している。しかしながらプライバシー保護の視点から捉えると、女児用トイレに扉やカーテンなどが無いことが憂慮される。卒園後には就学する年齢の子どもがいることを考え、トイレを使用する際に扉を閉めて使用する、扉は閉めないで使用するなどを自分で選択できる環境や、人目がある中で利用は恥ずかしいという羞恥心を育てることができ環境整備を早急に願いたい。同様にプライバシー保護という観点から、日々の保育を改めて職員全体で見直す機会を設けることも提唱したい。

評価領域ごとの特記事項

1.人権の尊重

- 各年齢少人数であることから園児一人ひとりのかかわりを大切にし、気持ちに寄り添い、個性を伸ばす、個々を認めることを大切に保育している。園児に対し保育士は大きな声や激しい口調で話すことはなく、常に穏やかに丁寧一人ひとりと接することを心がけている。
- 保護者対応は信頼感を築くことから大切に進めており、送迎時、連絡帳、懇談会、個人面談等、保護者の気持ちに寄り添いながら理解することを大切にしている。そのうえでお願いすることや、支援が必要な場合は園長、主任と連携しながら行っている。
- 虐待等の恐れのある場合は行政との連携のもと、子どもの安全を第一に考え、将来を見据えたり、また保護者を支えることも念頭に慎重に対応することになっている。
- 日本語のわからない外国籍の保護者に対しては差別することなく丁寧に接することを基本にしている。とくに、心をつなげることを心掛け、ひらがなで伝えたり

	<p>通訳を介することも念頭に入れ、対応することとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 大切な時期の子育ての手伝いができることに感謝し、命を預かっていることを真摯に受け止め、保育することを目指している。
<p>2.意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> 保育園と家庭での毎日の子どもの様子の共有手段として連絡ノートやホワイトボード、クラス便り、すくすくカード（子育て安心カード）を使用し、クラスの様子や子どもの成長を丁寧に知らせるようにしている。毎日の送迎時に話をすることや懇談会、個人面談を行うことにより、保護者との関係を深め、信頼関係を築けるようにしている。そのうえで話しやすい雰囲気を作り、相談や子育てについての話ができるようにしている。また、保育参加を実施することや、普段の子どもの様子や保育を保護者に見てもらうことで、保育園を知ってもらうようにしている。 異年齢児保育を導入している。3、4、5歳児が同じ空間で生活することにより縦のつながりも自然に生まれている。小さい友達に対する思いやりの気持ちや、目上の友達に対するあこがれや尊敬の気持ちが自然体で身につくことを期待している。各年齢が自立に向け、子ども同士がかかわることを大切にしている。 近隣に自然が残る公園も多く、体力をつけるという目的と自然を感じる感性を身につけることを大切にしている。駅にも近いことから、図書館や商業施設、また高校などにも行く機会を設け、生活に密着した保育が展開できる環境である。 プランターで野菜や花作りを行い、収穫した野菜を給食で食べる経験をし、食への興味につなげている。 今年度より小学校との連携も本格的に始まり、就学に向けて子どもも保護者も安心と期待が持てるような情報を提供できる体制を整えている。
<p>3.サービスマネジメントシステムの確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> 毎年保護者アンケートを実施しており、一年間を振り返るとともに、さらに良い保育の提供を目指している。保護者の意見は真摯に受けとめ、次年度の改善につなげている。 警備会社の緊急連絡網や掲示板での表示により緊急時の保護者への連絡方法を確保している。防災マニュアルや防犯マニュアル等で非常時の対応は具体化し保護者にも伝えている。毎月の避難訓練はどのようなシチュエーションでも対応できるように実施している。 子どもたちが快適、安全に衛生的な園生活が送れるように環境設定を考えている。限られたスペースを有効的に使うことで、遊びの展開を促し、落ち着いた中に楽しい雰囲気で作れる工夫をしたり、安心して眠れる雰囲気を作る努力をしている。園庭がないことで体力低下にならないように、晴れた日には近隣の公園に散歩に出かけ積極的に体を使う遊びを取り入れ、午後のおやつ後も公園に出かけ、遊ぶなど工夫している。砂場遊びや泥んこ遊びができない状況であるため、土粘土を取り入れ、泥んこに近い状況で遊ぶ工夫をしている。 園内2か所にウェブカメラを設置し、保護者がパソコンや携帯電話から子どもの様子を確認できるようにしている。入園当初や登園時、泣いていた日など子どもの姿を確認することで安心してもらっている。 苦情や相談などフランクに話せる関係を築くことを第一に考え、話しやすい雰囲気、また個別に話を聴く環境も用意している。相談は、子どものことや保護者についても対応している。
<p>4.地域との交流・連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子育て広場を今年度より開設し、地域の子育て家庭へのアドバイスや保育園を知ってもらう機会として、誕生会やコンサート、絵本の貸し出し等を行っている。まだ参加者は少ないものの参加家庭には丁寧にかけかわるようにし、子育てが楽しく、また自信が持てるような配慮と保育園とのつながりを持ってほしいことを伝えている。 近隣の県立高校との交流を継続しており、高校3年生の保育者体験、訪問しての

	<p>交流会を毎年続けている。園児たちは違った環境の中でゲームを楽しみ、自分をアピールする経験となっている。高校生は将来的に保育士志望の生徒が中心となっているため、保育士の仕事を経験する良い機会となっている。保育士を育てるという意味でも大切な時間ととらえている。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 幼、保、小連携を積極的に行うことで就学に向けて、園児、保護者が少しでも心配がなくなるように、また、園児が小学校や他の保育園・幼稚園の同年齢の子どもとのかかわりを大切にするようにしている。 • 実習生やボランティアについては同意書等の提示のもと積極的に受け入れを行い、来訪者及び保育園ともに成長できるよう努めている。
<p>5.運営上の透明性の確保と継続性</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 月案や年間指導計画の評価を行い、結果については運営委員会、懇談会、園内掲示によって保護者に公表している。 • 運営委員会を設置し年2回開催している。園、運営会社、第三者委員、クラス代表の保護者がメンバーであり、園の現状を伝えたり意見交換を行っている。また、要望などがあれば聴き取り対応している。 • 保育参加、懇談会、行事に多くの保護者が参加しやすいように日程についても配慮し、年間行事予定にて保護者参加の日程は年度の初めに知らせている。とくに、保育参加は保育に保護者も参加してもらい、給食も食べることから好評であり参加率が高い。どの行事も参加率は高く、保護者の積極的なかかわりが見て取れる。
<p>6.職員の資質向上の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 園児一人ひとりを大切にする保育を実践している。少人数の保育園の良さとして全職員で全園児を保育することを目標としており、クラス担任だけでなく、他クラスの担任も園児のことを把握できるように連携を取っている。そのために、子ども会議を中心に職員同士の情報共有を大切にしている。また、ヒヤリハット報告での気づきを大切に、対処、改善を常に考えるようにしている。 • 職員の個人差を補いながらともに成長できるように、園内研修では、毎月各クラスが持ち回りで課題を提案し、司会進行からまとめを行っている。日常保育の中で直接的に考えることができる課題から、視野を広げたものなど工夫が感じられる。 • 園外研修は本社研修も含め、職員一人が1回以上参加できるようにしている。リフレッシュも含め、新しい情報、また再認識したりすることも多いと思われる。研修で得たことは研修報告にて全職員に回覧するとともに職員会議（全職員参加）で報告している。 • 今年度より実習生の受け入れを実施する予定であり、職員のスキルアップにつなげたいとしている。 • 評価制度を導入しており、職員の経験年数や実績、自己評価を主体に能力や実績の評価を実施している。個々の目標を設定し業務にあたることで前向きな保育が実践されることを目的としている。